



国民栄養調査の温故知新

理事長 古野 純典 (この すみのり)

平成25年4月1日付けで独立行政法人国立健康・栄養研究所理事長に就任いたしました。世界的にも永い歴史を有する研究所の代表責任者として国民の負託に応えたいと存じます。

当研究所は、1920年（大正9年）に内務省所管の栄養研究所として創設され、1948年（昭和23年）に国立栄養研究所、1989年（平成元年）に国立健康・栄養研究所、2001年（平成13年）に独立行政法人国立健康・栄養研究所に改組されました。「食と健康」に関する科学的知見を提供することが研究所の使命であると考えています。研究所の活動のなかで、私自身が学生時代から感銘を受けていましたことは、国民栄養調査のことでした。医学系の教育を担当するようになってからは、「国民栄養の動向（現・国民健康・栄養の動向）」と「国民衛生の動向」は世界の名著であると言い続けてきました。「国民健康・栄養の動向」はわが国が世界に誇れる出版物であると考えています。国民栄養調査報告書は私自身の研究にも活用させていただきましたので、国民栄養調査がなければ私の研究の一部は存在しなかったことになります。

国民栄養調査は、連合国軍司令部（GHQ）の「一般住民の栄養調査を実施すべき旨」の指令にもとづいて1945年（昭和20年）12月に東京都内で実施された調査が原型であります。驚いたことは、GHQから日本政府への覚書に「各調査終了後必ず一週間以内二当該資料ノ最後ノ集計成績ヲ提出スベシ」（出典、「戦後昭和の栄養動向」第一出版1998年）の一文です。研究所年譜には「12月16日から18日の3日間調査し、年内に集計を終了し調査結果を提出した」と記述されています。戦後の食糧不足と栄養欠乏はGHQにとって深刻な問題でしたから、迅速な集計と報告が求められたものと思います。しかし、「迅速な集計と報告」はどんな調査でも重視されるべき原則であると考えます。

国民栄養調査は、平成15年から健康増進法にもとづき国民健康・栄養調査に拡充されました。この調査は国の健康政策に欠かせない調査です。健康と栄養のモニタリング情報源としての価値を認めない人はいないでしょう。ただ、この調査結果が健康科学と栄養学の研究に十分に活用されているとは思いません。国民健康・栄養調査が国内外の多くの研究者に活用されることを希望します。

当研究所では、食事摂取基準の策定、エネルギー代謝の研究、食品成分の有効性研究、運動疫学研究など、他にも注目すべき研究が進められています。今後、これらの研究についても所感を述べさせていただきたいと思えます。

●今年度の主な行事予定●

平成25年10月12日(土) オープンハウス2013（研究所公開）

平成26年2月15日(土) 第15回一般公開セミナー（有楽町読売ホール）

健康寿命延伸のための取り組み

所長 阿部 圭一

平成29年4月1日付けで、国立健康・栄養研究所所長に就任しました。本研究所は1920年に内務省の栄養研究所として発足し、日本の栄養学確立に貢献した歴史のある研究所です。その活動の代表とされる国民健康・栄養調査により得られた日本人の過去約70年間にわたる栄養摂取量の年次推移調査は世界でも類を見ない調査研究となっており、栄養摂取実態のトレンドを把握することにより健康栄養施策につなげています。今年5月から日本高血圧学会は毎月17日を「減塩の日」と位置付け、減塩に取り組む姿勢を打ち出しました。国民健康・栄養調査の調査結果から、目標値を未だに上回っているという現状において、今後、関係学会、業界とも連携しながら取り組んで行かなければなりません。

また、日本で唯一、専門研究者により論文を精査することをベースとした信頼性をもった健康食品データベース (<https://hfnet.nih.go.jp/>) は、年間600万アクセスを超え、栄養士・管理栄養士をはじめとして、薬剤師、医師などの専門家に広く活用されることとなり、国民に健康食品の有用性および安全性を正しく伝えるための有力な手段となっています。

平成27年度からの中長期計画の一つに掲げた「日本人の健康寿命延伸に資する身体活動と栄養の相互作用に関する研究」については、高齢者の低栄養の改善や、運動介入による筋力維持などにより、介護・治療への移行を最小限に食い止めるための介入の有用性を示すことを目指します。これにより、健康寿命と平均寿命の差、すなわち高齢者の介護・治療の期間（Nursing & Medical Care Period）という意味の『ケア期間』を短縮することを通じて、健康寿命の延伸を目指す研究活動に注力していきます。そして、エビデンスが確立できた介入方法に関しては、産官学連携で積極的に社会実装に向けた取り組みにつなげていくことで、健康寿命延伸と介護医療費削減にもつなげていきたいと考えています。

当研究所発足当時は国民病であった脚気との戦い、あるいは食糧難の時代背景において栄養状態の改善のための研究を進めていました。近年においては、メタボリックシンドロームの原因となる過食の問題が発生してきたと同時に、妊婦、若年女性、そして高齢者に関しては、現代社会においても低栄養という問題が存在し、この改善のための食育をはじめとする栄養指導、介入などが必要となっています。このように時代とともに多様化する健康・栄養に関する課題を正確に把握し、これにしっかり応えられる研究活動に取り組んで行くのが、国立健康・栄養研究所の役割と考えます。